

第2学年 国語科 学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水) 5校時
場 所 2年A組 教室
学 級 2年A組(男子18名 女子6名 計24名)
授業者 佐藤 志保

1 単元名

「登場人物の思いを想像して群読しよう」

～ いにしへの心を訪ねる 扇の的－「平家物語」から (「国語2」 光村図書)～

2 単元の指導目標

(1) 作品に関心をもち、群読発表のために進んで古典に触れ、交流して内容理解を深めようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

(2) 群読表現の仕方を考えるために、語句の使い方や描写の効果など、表現上の工夫に注意して読み、登場人物の言動の意味を考え、内容理解を深めることができる。

【読むこと】

(3) 独特の調子やリズム感など、「語り物」としての特徴をつかみ、その世界に親しむことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

作品に関心をもち、群読の方法を考えるために、グループ交流を通して進んで内容理解を深めようとしている。

【読む能力】

登場人物の置かれた立場や場面の状況を読み取り、心情について自分の考えをもっている。

【言語についての知識・理解・技能】

① 作品の特徴を生かして群読(音読)し、作品の世界に親しんでいる。

② 作品に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像している。

4 単元に位置付けた言語活動

本単元には、群読という言語活動を単元に位置づけた。この活動は、古文を群読するために「平家物語」を読むことによって、作品の時代背景や、那須与一や源義経など、登場人物の思いについて現代語訳や資料を参考にしながらじっくり読んで想像し、作品を深く鑑賞する効果が期待できる。群読という表現形式は、表現意欲の高い本校生徒にとって取り組みやすいものであり、単なる古文の読み方だけでなく、登場人物の心情や情景の読解に基づき、実際にどう表現するかを模索することによっても、登場人物の思いに迫ることができると考え選んだものである。これにより、学習指導要領国語科第2学年「C 読むこと」イ・エ、伝統的な言語文化に関する事項 ア(ア) (イ)を指導できるものと考えられる。

5 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領国語科第2学年「C 読むこと」の指導事項「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」と「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつこと。」を通して、第2学年〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア「(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」および「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を指導するものである。

「平家物語」は、鎌倉時代に書かれた歴史物語である。平家一門を中心に、時代に翻弄されるさまざまな人間模様が描かれている。また琵琶法師によって「平曲」として語られ、耳で聴いておもしろく感じる音楽

的な文体となっている。この作品を人に語って聞かせるために読むことは、生徒にとって大変意義深いことである。現代とは大きく異なる時代に生きた人々の思いや価値観を考えることで、現代に生きる自分たちと比べながら、「語り物」として人々を惹き付けた魅力に気づくための教材として好適である。

音読を繰り返すことで、格調高い古文のリズムを味わい、実感させるとともに、古語や時代背景・当時の文化についての知識も学習しながら内容理解に取り組ませたい。そのうえで、詳細な読みと深い想像力をもって登場人物の心情を考える態度を養っていきたいと考える。

(2) 生徒について

1年次に「いにしえの心にふれる」という単元において、「いろは歌」「七夕に思う」「蓬萊の玉の枝」「今に生きる言葉」を学習している。様々な古典作品に触れる中で、歴史的仮名遣いや現代にない古語、現代とは意味の違う古語について学習した。音読や朗読・暗唱などの言語活動を取り入れ、「C 読むこと アウ」の指導を通し、第1学年〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア「(ア)文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」および「(イ)古典にはさまざまな種類の作品があることを知ること」について指導した。

2学年では、これまで1学期に「枕草子」を学習している。第2学年「C 読むこと イ エ」「B 書くこと イ ウ」の指導を通し、〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア)(イ)について指導した。2学期に入り、小説「盆土産」や随筆「字のない葉書」を通して「C 読むこと(1) ア・イ・エ」の指導を行った。グループのかかわり合いを積極的に取り入れながら、登場人物の言動や情景描写など、叙述に即して読むことはもちろん、「書かれていない」が読み取ることができる内容を想像したり、人物どうしのつながりを考えて読んだりすることで、作品の温かさや優しさに迫った。

これまで教師主導の一斉授業で、自由発言によって課題解決をすることが多かったが、一学期からたびたびグループ学習を取り入れ、詩の群読や説明文のプレゼンテーションを通して生徒自身で内容の読解に挑む機会を設けてきた。それにより、一斉授業では発言の機会が少なかった生徒も、グループ学習では積極的に意見を述べ、学習課題の解決に取り組めるようになってきている。今回はそれらの学習を想起させながら、「扇の的」の群読に挑むことで登場人物の心情や価値観に深く迫らせたい。いにしえの人々のものの考え方に触れ、自分たちも共感できる点や価値観の違いなどを考えることで、時代を超えて受け継がれる古典の魅力に気づき、今後の読書活動へとつなげるきっかけとできればと考える。

(3) 指導にあたって

この単元で目指す、古典を読み「自分の知識や経験と関連づけて考える」力を高めるために、文法や古語についての説明は必要最小限にとどめ、生徒が問題意識をもって主体的に作品を読む姿勢を尊重して授業を進めていく。それには、「扇の的」を「語り物」として効果的に群読するために、音読の繰り返しで文体のリズムを感じながら、登場人物のどのような思いをどの表現から想像するか、またそれをどのように表現する必要があるかについて、生徒が自ら問いを発し、本文を深く読むことの必然性を感じさせたい。そして、個人が読み取った内容を交流することで、自分や集団の考えを発展させ、群読台本として結実させる。この単元の学習を通し、古文を正しく読解することは、古典に描かれた価値観や古人の思いに触れ、自分の考えを深めるための土台であることを生徒に実感させたい。そのうえで、生徒が古典を、現代とは異なるにせよその時代の状況の中で懸命に生きる人々のドラマとしてとらえ、時を超えて受け継がれる「平家物語」の魅力に気付くことができればと考える。

6 単元の指導計画並びに評価（全8時間）

時	学習内容	目標	かかわり 合い活動	評価規準
1	単元の学習活動と目標を確認し、見通しをもつ。 ○「扇の的」の群読台本をつくり、1年生に発表する。そのために作品について知り、原文と現代語訳を読んで登場人物の心情や場面の状況について深く読み取る。 ・教科書・資料集・ワーク等を読み、平家物語についての基礎知識を得る。	学習の見通しをもち、平家物語についておおまかな内容を理解することができる。		・学習の見通しをつかみ、積極的に学習に取り組もうとしている。（関） ・文語の特徴に注意しながら、リズムを味わい音読している。（言）
2	・冒頭文を繰り返し音読し、そこに描かれた無常観について読み取り、自分の考えをもつ。 ・個人・全体で音読する。	冒頭文の内容を理解し、文体の特徴に留意して音読できる。		・対句や漢文調など、文体の特徴に注意して読み味わっている。（言②） ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもっている。（読）
3	・冒頭文を個人で音読する。 ・群読の方法について確認する。 ・冒頭文について、描かれた世界観をふまえながらグループで群読台本をつくり、練習・発表する。	冒頭文の内容を考えて群読台本をつくり、群読できる。	グループ活動（群読）	・対句や漢文調など、文体の特徴に注意して読み味わっている。（言②） ・文章に表れたものの見方や考え方について、知識や経験と関連付けて自分の考えをもっている。（読）
4	・「扇の的」本文を音読し、文章の調子やリズムを捉える。 ・現代語訳を参考にしながら、おおまかな内容をつかむ。 ・現代語訳を参考に、登場人物の心情や場面の状況を読み取り、自分の考えをもつ。	文章の調子やリズムに注意して本文を読み、おおまかな内容を理解することができる。	文章の読み取り	・描写の効果や場面の状況、登場人物の言動の意味などを考えて本文の内容を理解している。（読） ・対句や漢文調など、文体の特徴に注意して読み味わっている。（言①）
5	・群読の方法について確認する。 ・前時の読解を基に、個人で群読の台本作りをする。 ・本文の内容を踏まえて、どのような役を生み出せるか、読み分かれ方を理由とともに考える。 ・台詞の中で、声を重ねる部分を考える。	群読の台本作りを通して、本文に表れた登場人物の心情や場面の状況を読み取ることができる。		・本文に表れた登場人物の心情や場面の状況について読み取っている。（読） ・作品の内容について深く考えながら、群読の方法を考え、作品の世界に親しんでいる。（関）
6	・個人で作成した台本をグループで交流し、発表用の群読台本にまとめる。 ・それぞれの台本で内容が異なる部分は、根拠とともに意見交流を行い、登場人物の心情や場面の状況の表現に最も適した形にまとめる。	群読の台本作りを通して、本文に表れた登場人物の心情や場面の状況を読み取ることができる。	グループ活動（群読台本作り）	・登場人物の言動の意味や心情について読み取っている。（読） ・作品の読み（解釈）や登場人物のものの見方や考え方について考えをもち、交流して深めようとしている。（関）
7 本時	・グループで群読練習を行い、台本を推敲しながら、登場人物の心情や場面の情景についての読みを深める。 ・各グループの群読の工夫やその理由について、発表し、全体で共有する。 ・発表に向けて、練習する。	群読練習と台本の推敲を通して、本文に表れた登場人物の心情や場面の状況を読み取ることができる。	グループ活動（群読練習）	内容理解に基づいた群読の表現方法について、自分の考えをもっている。（読） ・本文に表れた登場人物の心情や場面の状況について交流し、自分の考えを深めようとしている。（関）
8	・発表会をし、それぞれの良さについて交流する。 ・学習のふり返しをする。	群読発表を通じて作品の世界に親しむことができる。	グループ活動（群読発表）	・発表を通し、自分の考えを深めようとしている。（関） ・歴史的背景などを想像しながら、群読発表を行い、作品の世界に親しんでいる。（言）

7 本時の指導

(1) 目標

- ・ 歴史的背景や表現の工夫、場面の状況に注意して読み、登場人物の心情について考える。
- ・ 他の生徒の意見を聞き、内容理解に役立てるとともに、自分の読み（解釈）や登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを広げることができる。

(2) 研究にかかわって

文章の読解において、個人で思考した後、グループで「かかわり合い」活動を実施することで、他の生徒の考えを新鮮に受け止め、主体的に文章を読む姿勢が見られている。今回は「後輩」に対して「扇の的」を群読で表現するため、まず個人で考えて台本を書き、それをグループで交流し発表台本をまとめ、さらに他のグループとも交流して読みを深めるという「かかわり合い」活動を設定した。これにより、群読表現の幅が広がるとともに、内容読解についてもより広く、多くの視点を得られ、個人の考えが深まることが期待できる。同じ作品でも、語り手の考えによって表現の工夫は異なる。その根底にあるものは、登場人物の心情や場面の状況についての語り手自身の考えによるものであることを、生徒一人ひとりに意識させたい。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. 学習内容の確認 2. 学習課題の把握	・学習のねらいを具体的に示し学習の見通しを持たせる。進め方を説明し、スムーズに活動に入れるようにする。
	学習課題： 群読練習と台本の推敲を通じて、登場人物の感情や場面の状況を読み深めよう。	
展開 40分	3. 学習課題の追求 (1) 書き上げた台本を群読してみる。 (2) ・練習をする中で、登場人物の心情や場面の情景を聞き手に効果的に伝えられる読み方や理由についてグループで意見交流する。 ・他のグループの練習を見学する。 (4) 意見交流を基に台本を推敲する。 4. 学習課題の深化 (1) 各グループの群読の工夫やその理由について、発表し、全体で共有する。 (2) 他グループの工夫の共有・群読練習を通して、本文の解釈についての考えを深め、台本を推敲する。 (3) 次時の発表会に向け、練習する。	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">かかわり合い1</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div> ・他の生徒と意見交流し、場面の状況や登場人物の心情の解釈について、気付いた点や修正点を台本に書き加える。 ◆本文に表れた登場人物の心情や場面の状況について交流し、自分の考えを深めようとしている。 <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">かかわり合い2</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div> ・同じ場面での工夫に違うものがあれば、それぞれの工夫をみんなで試してみる。 <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">かかわり合い3</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div> ・意見交流して深まった読みを群読表現にどう反映させるか話し合わせる。 ◆内容理解に基づいた群読の表現方法について、自分の考えをもっている。（ワークシート記入） ・登場人物の思いを想像し、表現の意図をもって練習するよう意識させる。
終結 5分	5. 学習の振り返り 学習を振り返る。 次時の予告（発表会）をする。	・この学習で身についたことや、交流による自分の考えの広がりや深まりについて記入させる。（振り返りシート）

(4) 板書計画

<p>いにしへの心を訪ねる 扇の的―「平家物語」から 群読練習と台本の推敲を通じて、登場人物の感情や場面の 状況を読み深めよう。</p>	<p>〈流れ〉 一．演出を考えながら練習し、台本を推敲する。 （登場人物の心情や場面の状況を読み取り、 それにふさわしい読み方や群読の表現を目指す） 二．グループごとに群読の工夫や理由を発表する。 三．群読台本（最終版）の完成 四．ふり返り・次時の確認</p>
--	--

(5) ふり返りシート

<p>ふり返りシート 氏名</p>	<p>1 今日の学習で自分ができたこと・身についたことを書こう。</p>	<p>2 グループでの意見交流の前と後で、自分の考えにどの ような変化があっただろうか。具体的に書こう。 （新しい考えやものの見方が加わった、〇〇さんの意見を聞いて、 なるほどと思う、自分の考えが変わった、深まった、など）</p>
-------------------	--------------------------------------	---